

・魚類における不確実係数

魚類の種間差を考慮した不確実係数は「10」を採用する。
なお、感受性の高い魚類を試験種として用いた場合、科学的に妥当な範囲で1～10の不確実係数を適用することができる。

・甲殻類に対する不確実係数

甲殻類の種間差を考慮した不確実係数は「10」とする。なお、種間差の不確実係数を科学的に妥当な範囲で1～10の不確実係数を適用できる。

・藻類に対する不確実係数

藻類に関する感受性の差は、既往の知見から1～1000倍程度と幅の広いことが考えられるが、当該試験に用いられる緑藻 (*Pseudokirchneriella subcapitata* (旧 *Selenastrum capricornutum*)) は感受性が高い種として知られているため、当面、不確実係数は「1」とする。

